

山口県病院協会 会報

2014 **7月号** No.44

- 発行日 平成26年7月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



地域医療支援病院オープンシステム 徳山医師会病院

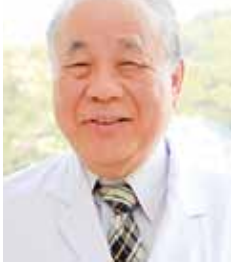
〒745-8510
周南市東山町6番28号
電話 0834-31-2350
FAX 0834-31-1623

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2 ページ
平成26年度定時総会	3 ページ
優良従業員表彰 受賞者一覧	4～5 ページ
協会役員コーナー	6 ページ
病院スタッフコーナー	7 ページ
研修会報告・諸会議報告	8 ページ
平成26年春の叙勲	9 ページ
平成26年度顧問・役員一覧	9 ページ
お知らせコーナー	10 ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



地域医療支援病院オープンシステム
徳山医師会病院

病院長 森松 光紀

当院は昭和26年に開業医が共同してオープンシステム病院を開設したのが始まりです。その後、若干の変遷を経て徳山医師会がこれを継承し、昭和41年「徳山医師会病院」として発足しました。山口県では2番目の「地域医療支援病院」の称号取得を契機に、平成14年「地域医療支援病院オープンシステム徳山医師会病院」と改称しました。平成25年旧病棟を取り壊して、駐車場に180床の新病棟を建設し、従来の西館病棟と併せて現在330床で運営しています。

当院は、名の示す通り、全国でもまれな完全開放型病院です。実際には、徳山医師会に所属する約60名の開業医が、自院で診療している患者を必要時に入院させ、主治医として精査・治療を行います。12名の常勤医は、病棟医長として主治医の不在時に対応しますが、全員が専門医でもあり、専門分野での共同診療に当たります。

当院の入院患者は急性期から慢性期にわたりますが、他にパーキンソン病を含む神経疾患患者も多く受診します。このためリハビリテーション部門に所属する約50名のPT・OT・STが、回復期リハビリテーション病棟や、いわゆる障害者病棟の入院患者のほかに、外来および訪問リハビリテーションを積極的に行っています。また、地域連携室も充実しており、徳山医師会在宅支援部門も加わって一貫した在宅医療を行っています。このように、診療所、医師会病院、在宅支援部門のスムーズな連携による地域医療への貢献が、当院の特徴といえます。

〈地域医療支援病院オープンシステム徳山医師会病院の現状〉

1) 概要

開設者 一般社団法人 徳山医師会
 病院長 森松 光紀
 診療科 内科・神経内科・呼吸器内科・消化器内科・消化器外科・循環器内科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・麻酔科・皮膚科・泌尿器科・肛門外科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科・病理診断科・臨床検査科（23）
 病床数 330床
 系列施設 訪問看護ステーション、地域包括支援センター、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、デイサービスセンター、看護学校、院内保育園

2) 沿革

昭和26年11月 「オープンシステム病院」を開設
 昭和38年10月 検査センターを開設

平成13年12月

平成14年4月

平成25年5月

平成25年11月

3) 特徴

当院は、日本で唯一の「完全オープンシステム病院」です。
 登録医である開業医と常勤医で共同診療します。
 検査センターおよび放射線部門が充実しており、各種検査装置および画像解析装置を共同利用します。
 画像読影も複数の医師で実施しています。
 リハビリテーション部門、健診部門も活躍しています。
 法人内に福祉関連事業所（在宅支援部門）を持ち、医療と福祉の連携を強化しています。

平成26年度 定時総会開催

日時 平成26年5月28日（水） 15：00～16：15

場所 山口市小郡黄金町1番1号

山口グランドホテル 鳳凰の間



開 会

天津昇次事務局長より開会宣言がなされ、木下毅会長の開会挨拶が行われた後、来賓の村岡嗣政山口県知事（代理山口県健康福祉部長小松一彦氏）、柳居俊学山口県議会議長（代理県議会環境福祉委員会副委員長星出拓也氏）、小田悦郎山口県医師会長よりそれぞれ祝辞が述べられた。



小松一彦氏



星出拓也氏



小田悦郎氏

次いで、病院優良従業員の表彰状授与式が行われ、受賞者80名を代表して宇部協立病院の前永修司氏に表彰状と記念品が授与された。



前永修司氏

総会成立宣言

審議に先立ち、木下毅議長より、総会出席者は当協会の会員総数135名に対して113名（うち委任状67名）の出席があり、定足数を満たしている旨報告され、総会が有効に成立する旨宣言された。

議事録署名人選出

本日の議事録署名人として、宇部興産中央病院福本院長並びに阿知須同仁病院西田理事長を選出した。

議案審議

○議案第1号

「平成25年度社団法人山口県病院協会事業報告及び収支決算の承認について」

天津事務局長より、平成25年度に実施した各種事業内容について詳細な説明と報告がなされた。さらに、平成25年度における当協会の収支決算状況について、収支決算書に基づき詳細な説明、報告があり、続いて尾中監事より平成25年度の事業並びに決算関係資料について、湧田監事とともに詳細に検討した結果、いずれも適正かつ適切に処理されている旨監査報告が行われ、審議の結果、原案どおり可決承認された。

○議案第2号

「理事の補充選任について」

天津事務局長より、理事の補充選任を行うことになった経緯と理事会において推薦を決定した理事候補者について報告がなされた。審議の結果、原案通り、桑田憲幸先生（光市立光総合病院院長）が新理事に選任された。

報 告

議案の審議終了後、天津事務局長より、今年度より報告事項となった平成26年度事業計画及び収支予算について詳細に説明が行われた。

閉 会

木下毅議長より、本日の定時総会はすべて終了したことが告げられ、議事の進行の協力に対する感謝の意を述べ閉会が宣言された。

◎ 特別講演

定時総会終了後、浄土真宗本願寺派善福寺住職の長倉伯博氏の特別講演「看取られる人と看取る人」～緩和ケアに参加した僧侶の経験から～が行われ、46名の参加者が熱心に耳を傾けていた。

講演では、終末期医療の現場で、医療チームの一員として患者や家族のケアに取り組んできた体験について話され、緩和ケアの現場においては、相手の立場になって共感し、受け入れ、共に悩み、涙し、寄り添いながら、患者の最後の友人になれるよう心掛けることが大切であると結ばれた。



長倉伯博氏



講演風景

受賞おめでとうございます

平成26年度 病院優良従業員表彰 受賞者名簿

病 院 名	役 職	姓 名
阿 知 須 共 立 病 院	看 護 師	釜 田 八 知 代
〃	事 務 職 員	坂 野 京 子
阿 知 須 同 仁 病 院	看 護 師	石 原 由 紀 子
〃	看 護 長	田 坂 憲 子
い し い 記 念 病 院	介 護 福 祉 士	河 本 百 合 子
〃	調 理 師	河 黒 本 幸 子
岩国市医療センター医師会病院	診療放射線技師長	梅 本 晃 彦
〃	総 務 課 長	藤 本 孝 夫
岩 国 第 一 病 院	准 看 護 師	原 河 野 明 美
宇 部 記 念 病 院	看 護 科 長	河 目 共 輝
〃	看 護 科 長	岡 本 修 司
宇 部 協 立 病 院	医 事 課 主 任	岡 前 永 村
〃	臨 床 検 査 技 師	前 竹 吹 田
宇 部 第 一 病 院	准 看 護 師	竹 村 譯 中
〃	保 育 士	吹 田 椿 久
宇部リハビリテーション病院	准 看 護 師	吹 田 橋 本
〃	介 護 福 祉 士	久 橋 福 末
江 藤 病 院	准 看 護 師	村 本 長 岡
王 司 病 院	看 護 師 長	橋 福 末 杉
〃	作 業 療 法 士	末 杉 後 宮
大 田 病 院	事 務 職 員	杉 後 宮 木
〃	事 務 職 員	後 宮 本 田
岡 田 病 院	准 看 護 師	宮 木 津 山
〃	准 看 護 師	木 村 益 廣
尾 中 病 院	准 看 護 師	村 津 末 瀬
〃	准 看 護 師	末 瀬 田 邊
鹿 野 博 愛 病 院	准 看 護 師	田 細 石 井
〃	准 看 護 師	津 山 益 廣
吉 南 病 院	准 看 護 師	末 瀬 田 邊
〃	准 看 護 師	瀬 田 邊 石
光 風 園 病 院	介 護 職 員	田 細 石 井
〃	事 務 長 任	細 黒 藤 寺
坂 本 病 院	看 護 主 任	寺 宮 上 吉
〃	看 護 補 助 者	宮 上 吉 清
佐々木外科病院	看 護 補 助 者	藤 寺 宮 上
重シ一本サイド病院	准 看 護 師	吉 清 藤
〃	准 看 護 師	吉 清 藤
周 南 記 念 病 院	准 看 護 師	吉 清 藤
〃	准 看 護 師	吉 清 藤

病 院 名				役 職				姓 名			
周 南	リハビリ	テーショ	ン病院	理 療 部 長	准 看 護 師	介 護 福 祉 士	佐 藤	孝 好	美 津 江	啓 眞 理 子	恵 律 子
桑	陽	病	院	臨 床 検 査 技 師	看 護 師	准 事 務 護 助 手	柴 水	美 ミ	代	子	子
都 志	見 病	院		准 看 護 職 員	事 務 護 助 手	看 管 理 栄 養 士	有 河	泰 千	明	瑞	千
德 山	医 師 会 病	院		介 護 事 課 職 員	准 看 護 師	看 介 護 事 課 職 員	秋 関	東 川	井 田	山 切	倉 田
德 山	リハビリ	テーショ	ン病院	准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	大 藤	栗 丸	岩 阪	原 松	枝 西
仁 保	病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	栗 丸	岩 阪	原 松	枝 西	多 安
光 中	央 病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	岩 阪	原 松	枝 西	多 安	椿 岡
藤 政	病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	西 多	安 椿	岡 尾	岩 海	小 河
扶 老	会 病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
防 府	病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
防 府	リハビリ	テーショ	ン病院	准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
松 本	外 科 病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
三 田	病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
み ど	病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
森 山	病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
安 岡	病	院		准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
山 口	大 学 医 学 部 附 属 病 院			准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
山 口	よ し き 病 院			准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本
湯 野	温 泉 病 院			准 臨 床 検 査 技 師	准 看 護 師	准 医 生 看 護 課 長	村 田	本 中	本 田	西 本	村 本

受賞者人数 80 名

協会役員コーナー

今がその時



医療法人 神徳会
三田尻病院

理事長 神徳 眞也

日本国民の健康保持増進に大きな役割を担ってきた「国民皆保険制度」が、日本の医療を支えてきた世界に類を見ない優れた医療制度であったことは疑いのないところです。しかし、戦後50余年続いた良き時代と良き制度にも、経済基調の変化、少子プラス超高齢社会、国民の意識や疾病構造の変化、医療技術の進歩等により、その制度に、ここ10数年大きな陰りが生じてきていたのも事実です。

そんな今、注目されるのが、医療介護総合確保推進法案の可決です。病床機能分化や地域包括ケアシステムの構築、地域医療ビジョンの策定を柱とするこの法案の可決により、これまで霧の中に隠れていた医療・介護の将来像が、白日のもとに晒されることとなりました。中でも注目されるのが、「地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化」の中にある地域医療ビジョンの策定における都道府県知事の権限を強化する、というものです。従来からあった地域に偏在する「過剰な病床」「過剰な機能」「不足している機能」といった各機能に対し、関係者が協議を行い、都道府県が必要としている別の機能に、半強制的に転換命令・指示することができるという内容です。さらに命令に従わない場合は、補助金の交付対象からの除外や承認取り消しといった罰則も可能となっ

ていることを忘れてはいけません。

新たな基金（財政支援制度）の創設と医療・介護の連携強化、地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保、といった耳触りのいい言葉に踊らされず、これからの地域医療に、自院がどう関わり参加していけるか、「今後のありかた」を決定づける重要な時期となっています。

基本理念「病院は地域そしてスタッフのもの」

目標「地域に求められる良質かつ適切な医療が提供できる病院」

「快適で活力ある働きがいのある病院」

今後も、患者様を中心とした心の通う医療の実現を目指して努力してまいります。

顔の見える地域連携



山口県厚生農業協同組合
連合会
周東総合病院

病院長 守田 知明

これから迎える超高齢者社会を前に在宅医療、地域包括ケアが非常に重要となっている。柳井医療圏は山口県圏域別では高齢化率（35.3%）が最も高く、以前からこの問題に取り組んできた。

平成14年に居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、行政等との情報交換会を立ち上げ、各現場の現状報告と連携を図る上での問題点について意見交換を始めた。平成16年からは医師も加わっての合同情報交換会を年に1回開催、さらに平成19年からは勤務医と開業医の情報交換会を開始した。初回のテーマは「救急医療について」だったが、厳しい意見の応酬となった為、その後は会議形式から5～6人でのグループワークを中心とした。そうする事で多くの参加者から発言があり、「顔の見える関係」には非常に有用であった。これらの会議は現在も続いており情報交換会は119回、合同情報交換

会は10回目を迎えている。

良好な地域連携のためにいろんな情報交換会を開催しているが、定期的にアンケート調査や検証作業を行っている。その結果、病棟看護師と地域の介護・福祉関係者の交互研修、医師や市長、町長も参加する合同情報交換会が始まった。また、勤務医と開業医の情報交換会は会議形式からグループワークや事例検討を導入し、さらに若手医師の交流会も始まった。これらは「顔の見える連携」の構築に多大な貢献をしてきた。

病院スタッフコーナー

「精神科看護介護勉強会 認知症部会の一員として」



医療法人社団豊美会
田代台病院
作業療法科 科長

作業療法士 佐藤 洋子

当院は昭和55年に開設され「心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。」という病院理念の下、認知症やその他の精神疾患を有する高齢の患者様やご家族に寄り添い、専門的に支える役割を担っています。

平成23年より「認知症治療専門の病院として、院内職員の教育研修と地域への啓発活動を行うこと」を目的とした「精神科看護介護勉強会 認知症部会」が発足しました。私も作業療法士として当初より参加し、当院独自の「認知症ケアマニュアル」の作成に取り組みました。医師、看護師、介護福祉士などの多職種と毎月意見交換をした2年間私自身、認知症について再考する機会になりました。その中で認知症の方々に対する作業療法は認知機能や精神面と共に、身体面にも働きかけていく必要があるという思いを強くしました。精神面へのアプローチに効果がみられても、体の不調により状況は一変してしまうからです。ひとつの「作業」が持つ効果は沢山あります。身体的効果も意識して作業療法プログラムを提供していくことで、患者様に心身ともに安定した穏やかな日々を過ごしていただきたい。そのためにこれからもひとりひとりの患者様に寄り添い、広い視野で作業療法を提供できるよう努力していきたいと思っています。また、病院内だけでなく地域にも目を向け、認知症や作業療法についての啓蒙活動も行っていきたいと思っています。

「回復期セラピストマネージャーを目指して」



光市立大和総合病院
リハビリテーション部
理学療法士

中村 美津男

当院は約2年前に44床の回復期リハビリテーション病棟を開設し、病院一体となって業務に取り組んで参りました。私の所属するリハビリテーション部でも若いスタッフが増え、病院・病棟の質の向上のために業務改善の意見が多く聞かれるようになり、経験年数の多い立場としてその意見を取りまとめるリーダーシップが求められるようになってきました。その中で上司に勧められたのが、当院が所属する一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会主催の回復期セラピストマネージャーコースの受講でした。その研修の目的は「入院患者及びその家族に対する質の高いリハビリテーションサービスの提供、人的・環境的リスクに関するリスク管理及び他職種との協働、さらに病棟運営に寄与し組織管理を实践できる回復期リハビリテーション病棟におけるセラピストマネージャーとしてのPT・OT・STを育成すること」とあります。難しい文面ですが、私がリハビリテーション医療を学んだずっと前からチームアプローチの重要性はうたわれており、長く臨床に携わった中でその難しさや仲介役の必要性はわたしのみならず感じられてきたことと思います。すでにリハビリテーション医療も時代の変遷の中で結果が求められる時代となりました。簡単な業務ではないと思いますが、まずしっかり研修を受け院内の多くのスタッフに働きかけを行っていき、チームアプローチとして患者・家族様のより有効な治療につながるよう尽力して参ります。

研修会報告

平成26年度山口県病院初級職員研修会

平成26年6月5日（木）山口県総合保健会館第1研修室において、山口県病院初級職員研修会が開催され、210名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。
【研修会】

テーマ 「山口県の病院の概況」
講 師 山口県病院協会
事務局長 天津昇次



吉田孝子氏



研修会風景

テーマ 「接遇の心と形・・・医療人として、社会人としての基本マナー」
講 師 株式会社エバルス 薬事情報室
営業支援グループ 吉田孝子 氏

病院協会の天津事務局長は、山口県の病院の概況を全国と比較しながら説明した。

続いて、吉田講師は、医療人として、社会人としての5つ（身だしなみ・表情・挨拶・態度・言葉使い）の基本マナーや電話応対についてロールプレイングを交えながら講演された。今年採用された職員を中心とした研修会であり、日常業務の中で経験する事柄も多く、参加者は熱心に耳を傾けていた。

諸会議報告

平成26年度 第1回理事会

日 時 平成26年5月22日（木）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【議決事項】

- 議案第1号 平成25年度事業報告及び収支決算について
- 議案第2号 平成26年度収支予算の更正について
- 議案第3号 理事の補充選任について
- 議案第4号 代表理事の交替について
- 議案第5号 職員人事について

【承認事項】

- 1) 平成26年度医療懇話会の開催について
- 2) 平成26年度第1回事務長部会研修会の開催について

【協議事項】

- 1) 新たな財政支援制度について
- 2) 賛助会員について
- 3) 夏季医療経営講習会について

【報告事項】

- 1) 県行政委員等の推薦について

・山口県高齢者保健福祉推進会議委員

理事 高橋幹治

・山口県生活習慣病検診等管理指導協議会部会委員「がん登録・評価部会」

理事 瀧原博史

2) 県各種委員会等の結果報告について

天津事務局長

・山口県男女共同参画推進連携会議（5月20日）

3) 会員の退会について

【その他】

- ・診療報酬改定後の収支状況実態調査について
- ・働き続けられる職場づくり推進アドバイザー派遣施設の募集について

平成26年度 第1回情報管理委員会

日 時 平成26年6月26日（木）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

- 1. 7月号の発行について
- 2. 10月号の発行準備について

瑞宝小綬章受章

おめでとうございます



斎藤 正樹先生

平成26年春の叙勲におきまして、当協会の推薦により、元常任理事で医療法人社団松涛会理事長（元安岡病院院長）斎藤 正樹先生が、保健衛生並びに医療関係団体振興に尽くされた功績により、瑞宝小綬章を授与されました。心よりお祝い申し上げます。

今後ともご健康に留意され、地域医療・福祉の更なる充実・発展のために尽くされることをご期待申し上げます。

主な経歴

昭和35年12月～昭和56年5月	斎藤医院 院長	
昭和56年6月～平成20年3月	安岡病院 院長	
昭和58年11月～現在	医療法人社団松涛会	理事長
昭和61年2月～現在	社会福祉法人松涛会	理事長
平成8年4月～平成16年3月	社団法人下関市医師会	理事
平成5年4月～平成23年3月	社団法人山口県病院協会	理事・常任理事
平成10年3月～平成17年2月	下関市教育委員会	委員・委員長

なお、山口県病院協会の推薦以外でも、会員の横山 敬先生（宇部リハビリテーション病院院長）が瑞宝中綬章を授与されました。心よりお祝い申し上げます。

平成26年度 一般社団法人山口県病院協会顧問・役員名簿

平成26年度一般社団法人山口県病院協会顧問・役員は下記のとおり。

顧問	西田健一	（阿知須同仁病院 会長）
〃	江里健輔	（山口県立大学 理事長）
〃	貞國 燿	（仁保病院 理事長）
〃	小田裕胤	（新南陽市民病院 名誉院長）

会長	木下 毅	（光風園病院）
副会長	三浦 修	（防府胃腸病院）
〃	水田英司	（小野田赤十字病院）
理事	吉田 延	（大田病院）
〃	佐柳 進	（関門医療センター）
〃	神徳眞也	（三田尻病院）
〃	守田知明	（周東総合病院）
〃	高橋幹治	（片倉病院）
〃	竹重元寛	（周南記念病院）
〃	瀧原博史	（山陽小野田市民病院）

理事	内山哲史	（岩国市医療センター医師会病院）
〃	玉木英樹	（玉木病院）
〃	西田一也	（阿知須同仁病院）
〃	名西史夫	（山口赤十字病院）
〃	福本陽平	（宇部興産㈱中央病院）
〃	桑田憲幸	（光市立光総合病院）
監事	湧田幸雄	（済生会山口総合病院）
〃	尾中宇蘭	（尾中病院）

尚、一般社団法人山口県病院協会役員業務分担は以下のとおり。

総括	委員会	委員長	委 員
木下会長	総 務	水田英司	吉田 延・高橋幹治・内山哲史・福本陽平
	学術・法制	三浦 修	神徳眞也・竹重元寛・玉木英樹・名西史夫
	地域医療	佐柳 進	守田知明・瀧原博史・西田一也・桑田憲幸
	情報管理	水田英司	瀧原博史・名西史夫・福本陽平

お知らせコーナー

山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰

6月15日、山口県病院協会より推薦した6名の方が、多年にわたり看護業務に従事した功績により山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰を受賞されました。

おめでとうございます。

猪上 妙子（山口大学医学部附属病院）
 今井 恵子（光風園病院）
 岡本 節子（山口県立総合医療センター）
 小野 泰子（防府リハビリテーション病院）
 山田 真弓（岩国みなみ病院）
 山本 多賀子（宇部興産株式会社中央病院）



左より受賞者 猪上、今井、岡本、小野、山田、山本の各氏

会員等の異動

会員の変更

・徳山中央病院	病院長 井上 裕二（変更前	病院長 林田 重昭）
・済生会山口総合病院	病院長 城甲 啓治（変更前	病院長 湧田 幸雄）
・サンポプラ病院	病院長 南園 宗子（変更前	病院長 南園 忠）
・森山病院	理事長 森山 秀樹（変更前	理事長 森山 禮）
・岩国病院	理事長 庄司 凡（変更前	理事長 庄司 孝）

会員病院の退会

・医療法人愛の会 織島病院
 ・済生会 湯田温泉病院
 ・医療法人山陽会 長門一ノ宮病院



病院協会の主な行事予定

○7月8日	第2回理事会	（会場：新山口ターミナルホテル）
○7月18日	第1回事務長部会研修会	（会場：新山口ターミナルホテル）
○7月25日	医療懇話会	（会場：ホテルニュータナカ）
○8月6日	栄養関係職員研修会	（会場：山口県総合保健会館）
○8月27日	夏季医療経営講習会	（会場：山口グランドホテル）

編集後記

ある本の中にwag the dogという言葉が出て来ました。普通は犬が尻尾を振るwag the tailなのですが、犬の尻尾があまりにも大きくなりすぎて、尻尾が動くとき胴体が振り回される状態をさすようです。少子高齢化の中で、医療や介護、年金などの社会保障が膨らみすぎて国家の財政を破綻させようとしている日本の将来予想をこのように表現したものでした。現在の長寿社会を実現したのは、社会保障制度の充実のおかげであったことは言うまでもありませんし、戦争を体験し、また、戦後の荒廃の中でひたすら働いた現在の高齢者の頑張りがあったことも確かです。将来世代に過剰な負担を積み残さないように、消費税をはじめとする税負担や保険料の引き上げそして保障内容の引き下げは避けられないことと思いますが、政府は100年安心なプラン等と言う根拠もない説明を繰り返すより、今まで足し算のみであった社会保障に、今後は引き算が始まることの必要性について、国民全体にもっと正直な説明を行うことが第一歩ではないかと考えます。

（名西史夫）